

財団法人 笹川記念保健協力財団

理事長 紀伊國 献三 殿

施設名 総合病院山口赤十字病院

代表者 名 西 史 夫



平成22年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業助成
に係る報告書の提出について

標記について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 研究・研修事業 平成22年度ホスピス緩和ケアナース養成研究事業
- 2 期 間 平成22年 4月 1日 ～ 平成23年 3月31日
- 3 報 告 書
 - I 事業の目的・方法
 - II 内容・実施経過
 - III 成果
 - IV 収支報告
 - ①助成金の主な使途（人件費以外は領収書等の証憑書類を添付）
 - ②当該助成金に関わる部分の決算書「写」
 - V 添付書類
 - ①山口赤十字病院ホスピス緩和ケアナース研修プログラム

ナースのためのホスピス緩和ケア研修事業 報告書

平成 23 年 3 月 10 日

総合病院 山口赤十字病院

I. 事業の目的・方法

1. 事業の目的

- 1) 緩和ケア(ホスピスケア)の現場を体験することによって、緩和ケア(ホスピスケア)に関わる看護師に必要な実践能力を身につける。
- 2) 自施設(個人)の課題に沿って必要な情報を得て今後の看護実践に役立てる。

2. 事業の方法

1) 研修場所: 山口赤十字病院 緩和ケア病棟および訪問看護ステーション

2) 研修受け入れ期間及び受け入れ人数: 12 名

平成 22 年 7 月 日～平成 23 年 3 月 18 日

上期(清瀬): 平成 22 年 8 月 2 日～同年 8 月 20 日 研修生 2 名

下期(神戸): 平成 22 年 11 月 1 日～平成 23 年 3 月 18 日 研修生 10 名

3) 研修実施方法:

- (1) 研修受け入れ窓口は看護部とし、研修申し込み、緩和ケア病棟指導者との調整、宿泊等の受け入れを行う。
- (2) 山口赤十字病院緩和ケア病棟に研修担当看護師を配置し、その指導・調整のもと緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術習得のために研修を実施する。
- (3) 山口赤十字病院緩和ケア研修プログラムを検討し、研修生の研修目標との調整をすることにより研修効果が高まるようにする。
- (4) 研修中は指導者による面接、終了時報告会、アンケートにより研修生の反応・意見、目標達成状況を把握する。

II. 内容・実施経過

1. 研修内容

研修生が自己の目的・目標が達成できるように、研修プログラムに沿って研修を進めた。

1) 研修目標

- (1) 緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術・態度を習得できる。
- (2) チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる。
- (3) 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる。
- (4) 自施設における看護ケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる。

2) 研修担当者

病棟研修責任者: 小野芳子

病棟研修担当者: 加藤恵子、原淳子、栗田響香、山村綾子

看護部研修担当者: 徳本美津子[副看護部長]

研修指導者: 日々の担当看護師

3) 研修プログラム(添付書類「緩和ケア病棟研修プログラム」)

2. 研修内容の経過

1) 研修の経過

(1) 看護部でのオリエンテーション(研修初日)

① 病院全体のオリエンテーション

(病院の理念・組織、看護部の理念・組織、院内教育 等)

② 病院内関連部署の案内をする

(2) 病棟での研修

① オリエンテーションの実施をする

・病棟内オリエンテーションを実施する

・関係部署に挨拶、紹介をする

〈オリエンテーションの内容〉

山口赤十字病院緩和ケア病棟の理念、基本方針

病棟構造

看護業務について

記録方法

オピオイドの取り扱い

研修生看護実務実施基準 等

② 研修の調整をする

研修の目的・目標の確認をし、各個人の研修の目標が達成できるように研修スケジュールを調整する。

当病棟の研修プログラムに沿った3週間スケジュール表を作成し、研修生に提示しスケジュールの調整をする。

③ 患者さんへ直接看護ケアの実施をする

④ 他職種(医師、医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、音楽療法士、看護師、病棟 部長、緩和ケアチーム看護師など)からのレクチャー(希望時)を受ける

⑤ 訪問看護の経験を訪問看護師とともに行動をし、体験する(1日)

⑥ ボランティアを体験する(半日を2回)

⑦ 緩和ケアチームの看護師から話を聞く

⑧ 院内の認定看護師から活動内容の話を聞く(希望時)

⑨ 看護カンファレンス、チームカンファレンスへ参加する

⑩ 病院内・病棟内勉強会へ参加をする(希望時)

⑪ 各行事への参加をする(希望時)

⑫ 週末毎に面接を行い、研修内容の状況の確認と今後の課題を明確にする

⑬ 第3週の木曜日にカンファレンスの時間で3分間スピーチをする

スピーチの内容は、派遣施設のこと、実習で気がついたことや感想などとする

⑭研修最終日に報告会を実施する

出席者:研修生、病棟研修責任者(病棟師長)、病棟研修担当看護師、副看護部長または看護部長、教育担当看護師長

時間:30 分程度

研修報告内容:

- ・自己の目標の達成度と今後の課題
- ・自施設で生かせること
- ・当病院への要望、病棟に対する意見・アドバイスなど

2)アンケートの実施

財団のアンケートに加え以下の内容を追加しアンケートを行った。

- (1)研修の内容の理解度(緩和ケアの理念、症状マネジメント、家族ケア、チームアプローチ、在宅ホスピス)
- (2)研修形態(研修前の対応、寮生活、研修設備・環境)
- (3)その他の意見・感想・要望
- (4)「ホスピスケアとは何か?自分の言葉で表現して下さい」

Ⅲ. 成果

1. 研修の成果

上期、下期をとおして研修生は研修を修了した。

当院の研修目標に沿って研修生のアンケートをもとに成果として報告する。

研修生のアンケート結果

アンケート対象者 上期(清瀬)2名

下期(神戸)8名(3月10日現在実習中の研修生2名は対象から外す)

アンケート回収率 100%(有効回答率 100%)

研修生の概要

平均年齢:40.2 歳

看護師経験年数の平均:14.8 年

職位:師長が1名、主任が1名、スタッフ看護師は8名であった

当院の研修目標

1. 緩和ケア(ホスピスケア)に必要な知識・技術・態度を習得できる
2. チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる
3. 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる
4. 自施設におけるケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる

1) アンケート結果1: 個人目標の達成度について

研修生の主な個人目標をあげると以下の内容であった。

看護実践に関するもの

- ・ 看護実践上の工夫や問題解決の方法を知る
- ・ 全人的な視点を持って看護ケアを考えることができる
- ・ 個別性のあるケアの介入方法がわかる
- ・ 患者とのかかわり方、ケアの取り組み方を学ぶ
- ・ 生活空間がどのように調整され、支えているかを知る
- ・ 患者・家族に対してのコミュニケーション方法について知る
- ・ 症状コントロールの実際を学ぶ
- ・ 家族や友人などのいない患者に対する対応を知る
- ・ グリーフケアの実際を知る
- ・ 全人的ケアについて理解する
- ・ 家族ケアについて学びを深める
- ・ 看護問題の解決法を理解する
- ・ ケアの工夫を知る
- ・ 実習施設で行われているケアの工夫を知る
- ・ コミュニケーション技術を高める
- ・ 看護ケアの工夫や問題解決の方法を知る
- ・ ホスピス緩和ケアの看護の専門性について考える
- ・ 在宅におけるホスピス緩和ケアの実際を学ぶ

チーム医療に関するもの

- ・ 緩和ケアチームの活動や役割について理解する
- ・ チームメンバーとしての看護師の役割を理解する
- ・ チームアプローチの実際を知る
- ・ 多職種と協力しながら患者のケアを担う看護師の役割を理解する
- ・ チーム医療の活動を理解し、一般病棟でも活用できる点を考える
- ・ カンファレンスを見学し、病棟のチーム医療のあり方を学ぶ
- ・ 多職種のありかたを知る
- ・ 在宅へ向けた援助を学び、地域との連携が理解できる

病棟管理に関するもの

- ・ 施設の概要を理解し、緩和ケア病棟がどのような役割を果たしているか理解する
- ・ 緩和ケア病棟の特殊性、特徴を理解する
- ・ ホスピス緩和ケアの役割について理解する

その他

- ・ 病院と地域の連携の流れや方法を学ぶ
- ・ ホスピス緩和ケアにおける看護の専門性について考えを深める
- ・ 自施設で行なうことができる緩和ケアについて考える
- ・ 講義での学びと実際を結び付けて考えることができる

これらの研修生の個人目標・課題に対しての達成度を、財団のアンケートをもとに、評価基準を《a: 十分達成＝4ポイント、b: 達成＝3ポイント、c: まあまあ＝2ポイント、d: 不十分＝1ポイントとして》点数化し評価した。

表1. 個人目標・課題に対しての個人の評価の平均点と人数

ポイント	4.0	3.8	3.7	3.6	3.3	3.2	平均
人数	3	2	1	1	1	2	3.7

結果と考察

平均値は 3.7 ポイントで、目標・課題は達成できたと考える。

「達成度a: 十分達成された目標評価」は 33 項目、「達成度b: 達成された目標評価」は 18 項目、「達成度c: まあまあと評価された目標評価」および「達成度d: 不十分と評価されている項目」は 0項目であった。全体的に目標・課題達成評価は高く、達成できたと考えられる。

2) アンケート結果2: 研修内容の理解度について

表2. 研修内容の理解度

	項 目	平均値
1	緩和ケアの理念	4.9
2	症状マネジメント	4.8
3	家族ケア	4.5
4	チームアプローチ	4.8
5	在宅ホスピス	4.7
6	自己の課題	4.5
平 均		4.7

5段階評価(5:よく理解ができた 1:理解できない)

結果と考察

どの項目も 4.5 以上あり、理解度の平均は、4.7 である。この結果は理解度が高いといえる。

3) アンケート結果3: 感想・今後の課題などについて

表3. 感想・今後の課題などのキーワードと人数

キーワード	人数
チームアプローチ(チーム医療)	8
症状マネジメント	7
カンファレンス	6
看護の振り返り	5
コミュニケーション	5
家族ケア	4
ホスピスマインド	4
在宅ケア	3
患者の思いに寄り添う	3
インフォームド・コンセント	2
QOL	1
今後の緩和ケアへのとりくみ方	1
いのちとの向き合い	1
ユーモア	1
ボランティア	1
教育	1

4) アンケート結果4: 「ホスピスケアとは？あなたの言葉で表現すると・・・」の内容

- ① その人らしく生きれるように寄り添うこと
- ② その人らしい生き方を支えること、医療チームで提供するケア
- ③ 最後までその人らしく生きることを支えるケア
- ④ その人がその人らしく生きることを支えること。その人のそばに寄り添うこと
- ⑤ 患者様の生に向き合うこと
- ⑥ 相手の事を考え続ける事。そばにいる事。
- ⑦ その人らしく行ききるために共にいること
- ⑧ 寄り添い心地よいケアをしていく
- ⑨ その人がその人らしく生きる為の援助をさせてもらう
- ⑩ 家のような生活が送れるケア

これらのアンケート1)～4)の結果から、研修目標1)～4)は達成できたと考える。

2. 当施設の受け入れについての評価

1) 研修運営について

表4. 研修運営について（単位：人（ ）内は％）

		大変良い	良い	まあまあ	不十分
1	研修プログラム	8 (80.0)	2 (20.0)	0 (0)	0 (0)
2	受け入れ体制	9 (90.0)	1 (10.0)	0 (0)	0 (0)
3	指導体制	8 (80.0)	2 (20.0)	0 (0)	0 (0)

(1) 研修プログラムについて

研修生の評価は、「大変良い」が80.0%、「良い」が20.0%であった。「まあまあ」「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想として、①緩和ケアに携える多職種からの講義があり、充実したプログラムであった(7名)②オリエンテーションから始まり、病棟を理解・把握するにしたがってステップアップしており充実していたなどが書かれていた。

これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。

(2) 受け入れ体制について

研修生の評価は「大変良い」が90.0%、「良い」が10.0%であった。「まあまあ」「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想として、①温かく親切に受け入れていただき、積極的に実習することができた(3名)②スムーズに実習をすることができた③患者・家族の方も声をかけていただきありがたかった④研修担当ナース、当日指導ナースの体制がしっかりできており実習に入りやすかった⑤目標に沿って経験できるように声をかけてもらい充実した日々だった(2名)⑥病院内のスタッフも声をかけてくれ指導を丁寧にしてくれたなどが書かれていた。

これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。

(3) 指導体制について

研修生の評価は「大変良い」が80.0%、「良い」が20.0%であった。「まあまあ」「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見や感想として、①どのスタッフも親切丁寧に熱心に指導していただき、不安に感じる事がなかった(5名)②毎週きちんとミーティングがあり、細かい点まで打ち合わせをしたり配慮してもらえた(4名)③研修生2人のために医師・看護師・栄養士・薬剤師・ボランティアコーディネーター・MSWの方々が講義をしてくれ、貴重な話を聞くことができたなどが書かれていた。

これらのことからプログラム内容は研修生が満足できる内容であったと評価する。

2) 研修形態について

表5. 研修形態について（単位：人（ ）内は％）

		大変良い	良い	まあまあ	不十分
1	研修前の対応	7 (70.0)	2 (20.0)	1 (10.0)	0 (0)
2	寮の生活環境面	2 (20.0)	7 (70.0)	1 (10.0)	0 (0)
3	実習設備・環境	6 (60.0)	4 (40.0)	0 (0)	0 (0)

(1) 研修前の対応について

研修生の評価は、「大変良い」が 70.0%、「良い」が 20.0%、「まあまあ」が 10.0%であった。不十分と感じている研修生はいなかった。

意見や感想は、①担当者の適切な説明を受けることができた(2名)②前日の宿泊ホテルの紹介もしてもらえありがたかった③できれば前日に入寮させてもらえると荷物の整理などでもできありがたかったなどが書かれていた。

(2) 寮の生活環境面について

研修生の評価は、「大変良い」が 20.0%、「良い」が 70.0%、「まあまあ」が 10.0%であった。「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想は、①部屋の大きさ、設備は使いやすかった(2名)②防音環境も良かった③思っていた以上に色々な物がそろっていて過ごしやすかった④生活用品が揃えられていて感謝している(3名)⑤自転車があって買い物に便利だったなどが書かれていた。

(3) 実習設備・環境について(図書・記録をする部屋など)

研修生の評価は、「大変良い」が 60.0%、「良い」が 40.0%、「まあまあ」「不十分」と感じている研修生はいなかった。

意見・感想は、①図書も充実しており、借用し学習することができた(5名)②研修室を中心に「自分たちがいていい場所」を確保してもらえた③寮にプリンターもあり助かった④病院内か寮のどこかにインターネットがあればよかった(2名)などが書かれていた。

今後も研修生が実習をしやすい環境を調整できるように新刊図書の購入などをしていきたい。

3. 総評

1) 研修の内容は現状で概ね良いと評価できる。

2) 来年度の課題

研修生が満足できる実習ができるように、オリエンテーションやミーティングなどで調整を行っていく

総合病院 山口赤十字病院 緩和ケア病棟実習プログラム（22 年度）

平成 22 年 2 月

I. 研修目的

1. 緩和ケア（ホスピスケア）の現場を体験することによって、緩和ケア（ホスピスケア）に関わる看護師に必要な実践能力を身につける
2. 自施設（個人）の課題に沿って必要な情報を得て今後の看護実践に役立てる

II. 研修目標

1. 緩和ケア（ホスピスケア）に必要な知識・技術・態度を習得できる
2. チームアプローチの実際を学び、チームの中での看護師の役割を考えることができる
3. 在宅ケアを支えるシステムについて知ることができる
4. 自施設におけるケアの実践のために必要な具体的な対策を考えることができる

III. 研修担当者：小野芳子【責任者】

山村綾子、加藤恵子、栗田響香、原 淳子【緩和ケア病棟】

看護部研修受け入れ担当者 徳本美津子【看護副部長】

※病院研修受入責任者 三井成子【看護部長】

IV. 研修指導者：日々の担当看護師

V. 研修プログラム

第 1 週：研修担当者で研修の目的・目標、課題の明確化をする。

緩和ケア病棟の特徴と 1 日の流れを理解する。

担当看護師と一緒に行動し緩和ケアの実際を体験する。

当院における緩和医療の実際について知る。（医師の小講義）

医師の回診に同行し、インフォームド・コンセントの実際を知る。

受け持ち患者さんを決定する。次週からの実習計画の確認をする。

第 2 週：緩和ケアの理念を目指し、実践している看護の実際を学ぶ。

受け持ち患者さんを中心に、担当看護師と一緒にケアを体験する。

担当看護師の指導を受けながら、症状マネジメントの実際を体験する。

緩和ケアチーム活動の実際を知る。

ホスピスボランティア活動を体験する。（半日 2 回）

中間面接を行い前半の実習の評価と後半の実習の目標・課題を明確にする。

第 3 週：緩和ケア外来実習を行い、受診される対象の現状を知る。

訪問看護実習を行い、在宅ホスピスケアの実際を知る。

チームカンファレンスへの参加や他職種の小講義（希望者のみ）を受け、他職種との連携を理解しチームアプローチについて学ぶ。

緩和ケア病棟での看護実践を通して、講義の学びを深めることができる。

報告会・面接を通して研修の評価と今後の課題を明確にする。

VI. 研修記録

1. 実習前に申し込み用紙を記入し提出する。

申し込み用紙に記載してもらう内容（研修の目的・目標、簡単な職歴）

2. 実習記録は所定の様式にワープロまたはパソコンを使用して記録する。

研修担当者・師長・その日の担当看護師（またはかかわった他職種）がサインをする。

VII. 研修評価とまとめ

1. 実習最終日には報告会を行なう。（研修担当看護師・病棟師長・看護部研修担当が参加）

2. 実習終了後実習の学びのレポートを提出する。

（財団に提出するものと同じ様式でよい）

VIII. その他

1. 夜勤実習を希望の場合は3週目に行い、21時までに実習終了するよう時間調整する。

2. 他職種(医療ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師、音楽療法士、緩和ケアチームの看護師)の小講義は希望時のみとする。

3. 実習内容…注射は全て禁止する。（持続皮下注射の早送りも不可）

4. 看護記録の書き込みは、担当看護師の指導のもと受け持ち患者さんのみ許可とするが。

5. 研修期間中の勉強会や各種行事への参加は研修生の自由とする。

平成 22 年度 ナースのためのホスピス緩和ケア研修 3 週間スケジュール表

研修生 ○○ ○○さん

△△ △△さん

月 日 (月) ~ 月 日 (金)

研修担当者 日赤 花子

月 日	A M	P M	
月 日 (月)	看護部オリエンテーション 病棟オリエンテーション	患者紹介	
日 (火)	回診に同行		
日 (水)		13:30 栄養士の話	
日 (木)		14:00 医師の話	
日 (金)	回診に同行		ミーティング 受持ち患者決定
日 (土)			
日 (日)			
日 (月)	ボランティアコーディネーター の話		
日 (火)	緩和ケア外来	ボランティア (1 回目)	
日 (水)		看護師の役割について (緩和ケア認定看護師)	
日 (木)	音楽療法士の話	ボランティア (2 回目)	
日 (金)	訪問看護 (1 人目)		ミーティング
日 (土)			
日 (日)			
日 (月)	訪問看護 (2 人目)		
日 (火)	11:00 薬剤師の話		
日 (水)		15:00 MSWの話	
日 (木)	緩和ケアチーム看護師の話	3 分間スピーチ	
日 (金)	11:00 報告会		

* 緩和ケアチームメンバーのレクチャーは 30~60 分程度とする

* 第 4 水曜日の 17:10~はチームの勉強会をする

* 訪問看護実習の前日までに目標・目的を記載し訪問看護ステーションに行き調整する (研修生)

緩和ケア病棟 研修記録

施設名 ()

月 日 ()

氏名 ()

今日の目標

研修内容 (担当看護師:)

感想・問題点・その他

師長 () 研修担当者サイン () 担当者サイン ()

平成 22 年度 実習後アンケート

山口赤十字病院 緩和ケア病棟

名前 () 派遣施設:

実習期間 :平成 年 月 日～平成 年 月 日

I. 実習形態について下記の内容にご回答ください。

1. 実習前の対応はいかがでしたか？

a. 大変良い b. 良い c. まあまあ d. 不十分

()

2. 寮の生活環境面について

a. 大変良い b. 良い c. まあまあ d. 不十分

()

3. 実習期間について

a. 適当 b. 短い c. 長い

()

4. 実習プログラムについて

a. 大変良い b. 良い c. まあまあ d. 不十分

()

5. 実習受け入れ体制(病棟)について

a. 大変良い b. 良い c. まあまあ d. 不十分

()

6. 実習の指導体制について

a. 大変良い b. 良い c. まあまあ d. 不十分

()

7. 実習設備・環境について(図書・記録をする部屋など)

a. 大変良い b. 良い c. まあまあ d. 不十分

()

II. 実習の内容について

理解できない

よく理解できた

1. 緩和ケアの理念について

1 2 3 4 5

2. 緩和ケアに必要な症状マネジメントについて

1 2 3 4 5

3. 家族ケアについて

1 2 3 4 5

4. チームアプローチについて

1 2 3 4 5

5. 在宅ホスピスについて

1 2 3 4 5

6. 自己の課題

1 2 3 4 5

最後に・・・

ホスピスケアとは？あなたのことばで表現すると_____

アンケートにご協力ありがとうございました。

実習お疲れさまでした。当院での実習が、今後のケアに少しでもお役に立てれば嬉しいです。